

# **J-SAILING**

**JAPAN SAILING FEDERATION**

## **2017 YEARBOOK**



**NO.113**

**[www.jsaf.or.jp](http://www.jsaf.or.jp)**



色褪せるのは、色増すこと。

破れて、繕って

ほどけて、繕って

いつか雑巾になるまで。

百年愛される服を、

フォーティファイブ・アール

---

45アール

フォーティファイブアールピーエムスタジオ株式会社  
東京都港区南青山 7-2-1 青康ビル  
TEL 03-3498-2245  
<http://45r.jp>

# 日本セーリング連盟が目指すもの

セーリングは、自然、技術、ルールを駆使し、総合的な人間力を発揮するスポーツです。  
World Sailing(国際セーリング連盟)は、セーリングについて次のようなモットーを掲げています。

## SPORT NATURE TECHNOLOGY

東京2020オリンピック・パラリンピックまであと2年。日本セーリング連盟(JSAF)は今年、オリンピック・テストイベント/ワールドカップ・シリーズ、ハンザ級国際選手権など国際大会の準備・開催に力を注ぎます。また、メダル獲得に向けた選手強化と、オリンピック・レース運営担当者の人材確保と育成を図ります。

セーリングのより一層の普及・振興・発展のために、スポーツとしてセーリングを行って、いるセーラーの活動・スキルを向上させるとともに、セーリング界の裾野を広げ、安全で快適なスポーツ、レジャーとして、セーリングを普及させ、いく必要があります。そのため、セーリング愛好家もとよりそれ以外の方々に広くセーリングを普及・啓発するとともに、セーリングおよびJSAFを応援していただく個人・企業・団体を募ります。

World Sailingの『持続可能性アジェンダ2030』にタイアップした日本のセーリングでの持続可能性活動を検討していきます。

### 【平成30年度 JSAF事業の方向】

#### 1. セーリング・スポーツの発展振興と安全確保

- ① ユース、次世代セーラーへの幅広い活動支援
- ② オリンピック・テストイベント/ワールドカップシリーズ、国際大会の成功
- ③ 外洋レース、大型艇レースの活性化
- ④ 障がい者セーリングの普及・推進
- ⑤ 福井国体セーリング競技会、茨城国体リハーサル大会の準備・開催
- ⑥ セーフティーセーリング(桜マーク付ライフジャケット着用義務化に伴うセーラーのライフジャケットの着用推進、レース運営艇・コーチボート等関係船舶の安全管理の徹底)
- ⑦ アンチドーピング活動の推進

#### 2. 広く普及・啓発し、セーリング界の裾野を広げる

- ① 会員増強

- ② ジャパンインターナショナルボートショー「さあ 始めよう！セーリング！キッズからセーリングを！」
- ③ 日本一周フラッグリレー(東京2020 参画プログラム事業)
- ④ サポート企業・団体・会員の開拓
- ⑤ セーリングのファンの開拓

#### 3. セーリング界を支える連盟組織の強化

- ① 公益財団法人としてのガバナンスの強化、コンプライアンスの確保
- ② ジェンダーイコールの推進
- ③ 会員管理システムのサービス向上
- ④ 情報システムのセキュリティ対策
- ⑤ 2019年の新会館移転への準備
- ⑥ セーリングを支える委員会活動の活性化



**YANMAR**

# X39 Express Cruiser

Coming Soon



2017年5月2日～8日 父島・二見湾～三浦半島・小笠原沖

小笠原ヨットレース 2017 (小笠原諸島返還 50 周年記念事業)

# 500マイルの長丁場に 14艇がエントリー



風に恵まれたスタート後、美しい小笠原の自然の中を走る艇団



スタート前の二見湾。地元・父島の皆さんにも注目していただいた

## ついに復活

2005年を最後に長く開催されていなかった「小笠原ヨットレース」が、2017年について復活した。沖縄・東海ヨットレース、西宮・横濱ヨットレースなど、ロングオフシヨアレースに対する熱が高まるなか、多くの外洋レーサーの期待が現実になったといえるだろう。前回はわずか3艇の参加にとどまったが、今回の小笠原ヨットレースには、なんと14艇ものエントリーを集めるに至った。

5月2日12時に、エントリー14艇のうち12艇が父島の二見湾内からスタート。言うまでもなく、小笠原諸島は世界自然遺産にも登録されている場所だ。美しく、そして猛々しい大自然の中をセーリングできるのは、この小笠原ヨットレースに参加したセーラーだけが享受できる幸せなのかもしれない。

小網代沖まで500マイルのレースコースの大半は、島ひとつない、まさに「外洋」。セーリング技術、シマンシップ、ナビゲーションなど、乗員にはさまざまなスキルが要求される。そんな外洋レースの醍醐味がぎゅっしり詰まった、国内では他にない素晴らしいレースとなった。

## 次回も2019年 春の開催を予定

トップフィニッシュは、(1122トレッキー) (ミユワー40) で、5月5日8時37分49秒(2日と20時間37分49秒)。その後、各艇が次々と続き、翌6日5時24分7秒に(サユト) (ヤマハ34EX) がフィニッシュラインを横切り、レースに参加した全12艇が事故などのトラブルなく完走した。

IRC部門総合優勝は(アンディアーモ) (ファー36MOD)、ORC部門総合優勝は(マゼランメジャーV II) (オイスター56)。7日に三崎港で行われた表彰パーティーでは、参加艇メンバーが互いに讃え合う姿が印象的であった。

また、今回は古野電気の協力により、国内初のトラッキングシステムを開発。これは衛星電話を使ったもので、レース中、ほぼリアルタイムで参加艇の動向がつかめるので、レースに参加しなかった方々にも一緒に楽しんでいただくことができました。もちろん、安全面での意義も見逃せない。ほかにも、ソフトバンクの協力により、参加全艇に衛星電話(スラヤ)を搭載し、ロールコールに活用したほか、陸上とのライフラインという意味でも大きな役割を担った。

今回の小笠原ヨットレースは、2019年春の開催を予定している。外洋セーラーなら、ぜひ一度チャレンジしていただきたいと願っている。(レポートと写真/小笠原ヨットレース2017実行委員会)

# 翼は、夢を見る。

勝利を夢見て、ひたすら努力するアスリートたち。  
彼らの頑張りや、汗が、涙がスポーツの魅力となって輝く。  
勝敗をこえた感動を、私たちに与えてくれる。

彼らのさらなる飛躍を願い、

JALはスポーツの夢を応援します。

日本航空は、東京2020  
オリンピック・パラリンピックの  
オフィシャルエアライン  
パートナーです。



TOKYO 2020  
OLYMPIC GAMES



JAPAN AIRLINES



TOKYO 2020  
PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルエアラインパートナー



2017年7月27日～30日 五ヶ所～利島～江の島 (180マイル)

第58回パールレース

一度は、いつかはパールレース!

微風の中のスタート



恒例の前夜祭での集合写真。スタートを翌日に控え、みんないい顔です

### 台風の影響を受けずに開催

第58回パールレースは2017年7月27日～30日に行われました。レースコースの東の海上に台風5号と6号があり、5号が西へ移動するとの情報にレースの実施可否に悩みつづ準備が始まりました。台風の進路によってフィニッシュ後の帰路に影響があればスタートしない艇も出てきます。今回、東海以西の参加艇が19艇あったので、江の島に係留場所を確保した上で艇長会議に臨みました。

レースをサポートしてもらっている気象海洋コンサルタントの情報は、「台風5号は北の高気圧に頭を押さえられているため、北および北西に向かう可能性は低く、レース海域への直接の影響はない」とのことでした。会議の中で参加者からは「台風の影響は東や南に行くほど大きくなるので、利島回航をやめては」とのコース変更の提案もありましたが、協議の結果、帆走指示書どおり利島回航のコースとしました。翌朝、スタートの五ヶ所湾口は風が弱く、南西の微風の中、強い引き

潮にスタートライン上の艇はズルズルとラインを出て行きます。ゼネラルリコールを2回くりかえし、3回目ようやくスタートしました。

その後レースフリートはほとんどまとまった状態でしたが、その中から「1122トレッキー」(ヘクレセントII)やその他の大型艇が先行しました。利島回航は、風に恵まれた北からのコースが有利だったようです。微風から強風までの長いレースで、全体の所要時間は前回に比べ約6時間長い展開でした。レースフリートの航跡は大会サイトに掲載した「どこでもヨット」をご覧ください。

### 来年は7月26日～29日に開催の予定

17年 World Sailing 主催のセーリングワールドカップ (SWC) が三河湾・蒲郡で開催されたのを皮切りに、18年、19年は江の島で開催され、いよいよ20年の東京オリンピックへ向けてのスケジュールが進行します。

江の島ヨットハーバーがどのようなのか未確定なことが多いようですが、SWCの開催時期は秋口で、パールレースには当面の支障はないようです。

伝統の「パールレース」のフィニッシュが江の島でもあり、日本の外洋レースのPRのためにも、このSWCの開催に合わせて何かで貢献できないかと思いを巡らせております。

18年の第59回パールレースは、7月26日～29日に開催する予定です。ぜひ「一度は、いつかはパールレース!」とお考えのみなさま、準備を始めてください。お待ちしております。(レポートと写真/第58回パールレース実行委員長・河内道夫)



GO BEYOND™

## 2017 Winning Results

2017 420 World  
Open / Ladies / Under17

2017 OP All Japan  
Overall / Girls

2017 SNIPE All Japan

2017 World Cup Gamagori 470 class  
Mens / Womens

2017 470 All Japan  
Mens / Womens

2017 SNIPE WORLD  
Overall

2017 420 European  
Open / Ladies / Under17

2017 470 Worlds  
Mens / Womens

2017 World Cup Santandale  
Mens / Womens

2017 World Cup Hyeres 470 class  
Mens

2017 Princess Sophia  
Mens

2017 World Cup Miami 470 class  
Mens

# THE SAILMAKER OF CHOICE...

# 信頼の証し

新しいデザインを追求し、絶え間ない挑戦を続けるノースセール。

より速くトリムしやすいセールのデザインを、最先端のCFD (数値流体力学) / FEM (有限要素法) シミュレーションプログラム、解析プログラムを活用して開発しています。

これらのデザインプログラムも進化を続け、精度の高い究極のシミュレーションプログラムを目指し、改良されています。

さらに、海上での2ポートテストにより、セールのパフォーマンスの向上、セールシェープの再現性を確認。セーラーに完璧なセールをお届けするために、全力を尽くしています。

次に手にする最新のデザインのセールが、これまでのセールの性能を上回り、さらにセーリングパフォーマンスを高めます。

ノースセールをチョイスすることがレースに向けた最良の準備となるでしょう。

本社・横浜ロフト 045-770-5666  
関西ロフト 0798-26-7771  
北海道ロフト 0134-25-3227



全日本外洋ヨット選手権大会 Japan Cup 2017

## コンペティティブなレースを展開



11艇の精鋭がエントリー

## 11艇の精鋭がエントリー

真夏のお盆の時期に開催されるようになって3回目となる2017年のJapan Cupは、16年の西宮から相模湾に舞台を移して開催された。

大会準備段階では、相模湾に面するマリナー事情とマリネレジャー最盛期での開催とあって参加艇の係留バースの確保に苦労したが、最終的にリビエラリゾートとシーボニアヨットクラブ会員の協力によりバースを確保でき、シーボニアマリーナでの開催にこぎつけた。

大会には関東の8艇に加えて関西からの3艇計11艇の精鋭がエントリーした。内訳をみると、今どきの軽排水量ハイパフォーマンスのピュアレーサータイプ40フィート艇4

艇、36フィート艇3艇、従来型のレーサータイプ4艇となり、コンペティティブなレースが展開された。

## 優勝は〈ブラック〉

大会期間中はこの時期には珍しい北から北東の軽風に終始した。レース初日の10日は1レース、11日は3レースのインシヨアレレースが行われ、関西から参加の前年度優勝艇〈サマーガール〉が首位に立ち、2位にはこれも関西から遠征の〈ブラック〉、3位には地元シーボニアの〈光風〉がつけた。

12日は得点が1.5倍となる小網代→初島→小網代→城ヶ島南西沖ブイ→小網代の約58NMのシヨオートオフシヨアレレースが行われた。

スタート時は6〜7mの中風であったが、艇団が初島に近づくころには天気予報通りに風が落ち神経戦の展開となった。

レース委員会では23時のタイムリミットを鑑みて小網代でのコース短縮(約48NM)を決め各艇のフィニッシュに備えたがその後も風が来る気配はなく、早々にリタイヤを決定する艇が出るなか、〈ブラック〉、〈スランジバー〉の2艇がタイムリミットの約15分前に相次いでフィニッシュしたものの、ほかは時間切れとなった。

最終日はインシヨアレレース2レースを行った。〈サマーガール〉が2レースとも素晴らしい走りでもトップを取ったが前日のリタイヤがひびき、総合では1位〈ブラック〉(樹神弘郎オーナー BOTIN 40)、2位〈サマーガール〉(馬場益弘オーナー FIRST 40)、3位〈スランジバー〉(中嶋光司オーナー Ker 40+)と上位を関西勢が独占してJapan Cup 2017を終えた。

次回は10月29日～11月4日に開催決定

なお、JSAFでは、18年度から3年間は開催地を関東と関西の中間地点である東海に固定して、2018年は10月29日～11月4日に開催することを決定した。

また、日本で最も普及しているミドルボートクラスの従来型レーサ艇の参加を促すためクラス別にJapan Cupを設けるなど、Japan Cupのタイトルにふさわしい大会規模になるよう今後も検討をしていく予定である。(レポート / 大会実行委員長・平松隆、photo by Kazushige Nakajima)



優勝を決めた直後の〈ブラック〉

# 起こせ、日本旋風。



470 Class Men

© Kazushige Nakajima

セーリング日本代表「日の丸セーラーズ」を応援しています。

[オフィシャルパートナー]



LUXURY CARD™



[オフィシャルサプライヤー]



日の丸  
セーラーズ  
SAILING Team JAPAN



2018年度JSAFナショナルチーム、特別強化対象選手(全31人中27人)の顔ぶれ

# 東京五輪を目指し 18年度ナショナルチームが決定!

## マイアミ大会には 32人の日本選手が参戦

2017年度は、2020東京五輪を目指した具体的な動きがはつきりと見える年となった。

五輪レース運営スタッフの育成と人材確保、そして選手の強化を目的に5つの国際レースが日本国内で開催されたのだ。

その5つのレースとは、テザー級世界選手権大会(豊田自動織機海陽ヨットハーバー)、470級ジュニア世界選手権大会(江の島ヨットハーバー)、RS:Xウインドサーフィン世界選手権(江の島ヨットハーバー)、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会(豊田自動織機海陽ヨットハーバー)、そしてASAF Sailing Cup JSAF 江の島オリンピックウィーク(江の島ヨットハーバー)。このうち、テザー級世界選手権は五輪種目ではないが、国際的なレベルのレース運営者を育てるという観点からは2020東京につながるレースであった。

ことにセーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会において、RS:X女子の大西富士子選手が銀メダル、FX級の原田小夜子・永松瀬羅組が銅メダル、470女子の吉田愛・吉岡美帆組が銀メダル、470男子の磯崎哲也・高柳彬組が銀メダル、470男子の土居一斗・木村直矢組

が銅メダルを獲得するなどの成果を挙げたことは、選手強化という面では大きな収穫となった。

そして、2017年に行われた各クラスの世界選手権、セーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会、江の島オリンピックウィーク、全日本選手権などを経て2018年度のナショナルチームが新たに決定した。

すでにセーリングワールドカップ・マイアミ大会(1月21日~28日)にはナショナルチームを中心とした32人の日本選手が参戦し、土居愛実選手がレーザージャル級で3位に入るなど、強化活動の一端が現れ、2020年に向けてさらに加速度が増している。

## 重要な3大会が行われる18年

2018年は日本のセーリング界にとっては重要な3つの大会が行われる。

その一つがオリンピックのテストイベントを兼ねたセーリングワールドカップ江の島大会(9月9日~16日)。17年の愛知・蒲郡大会につづき日本が開催する2回目のワールドカップであり、選手はもとよりレース運営スタッフにとっても五輪会場での貴重なトレーニングの場となる。

また、インドネシアではアジア大会(8月18日~9月2日)が行われる。アジア大会の大会規模は決して

大きくないものの、470級男女、49er、49erFX、RS:X男女、レーザージャルが行われる国際大会であり、日本の五輪種目の強化という観点からは重要な大会となる。何よりも、国を代表として戦う場としては五輪に次ぐ大会であることを忘れてはならない。

また、ワールドセーリング世界選手権(7月30日~8月12日)がデンマーク・オーフスで開催される。

この大会は19年度のJSAFナショナルチームと19年8月開催予定のプレオリンピック代表の一部を選考するための大会ともなっており、これまた2020を目指す日本の選手にとっては重要な大会である。

加えて、本大会は世界のセーラーから見ても重要な大会である。

というのも、本大会は五輪参加枠がかかる最初の大会であり、各種目の40%のエントリーがここで決まる。早々と枠をとった国は本腰を入れて江の島でのトレーニングに取り組み始めることができる。

\*

2020東京五輪を目指す選手たちにとってはいよいよ正念場を迎える2年間のスタートとなる。セーリング仲間として、そしてJSAFメンバーとしてオリンピックを目指すナショナルチームの活動をしっかりと応援したい。(レポート/ジャーナリスト I L I N G、写真/濱谷幸江)

第35回アメリカズカップ

# ソフトバンク・チーム・ジャパン、参戦



笠谷、吉田がグラインダーとして活躍 (photo by ACEA 2017 / Gilles Martin-Raget)



チャレンジャーのエミレーツ・チームニュージーランドがカップを獲得 (photo by ACEA 2017 / Ricardo Pinto)

## エミレーツ・チーム ニュージーランドが勝利

イギリス領バミューダ諸島で開催された「第35回アメリカズカップ」に、17年ぶり、5大会のブランクを経て日本チームが参戦。ハイテク高速艇のフォイリングカタマランで行われた戦いは、挑戦者の勝利で幕を閉じた。

\*

関西ヨットクラブ所属の「ソフトバンク・チーム・ジャパン」は、ベテラン早福和彦を中心に、スキップのティーン・バーカー、ウイングトリマーのクリス・ドレーパーなど世界屈指のセーラーが集まり結成された。さらにロンドン五輪470級代表の吉田雄悟、漕艇競技

で五輪を目指した笠谷勇希の2人が50倍の狭き門を突破し加入。予選シリーズで存在感を見せた。

チームは準決勝で敗退したが、2015年から始まった前哨戦のワールドシリーズでは2大会で表彰台に上り、福岡で行われた最終戦には大観衆を集めるなど、久しぶりの日本チーム参戦に沸いたことは間違いない。

また、アメリカズカップへの登竜門として注目を集める「ユースアメリカズカップ」に、日本チーム「海神チームジャパン」が参戦。決勝進出の夢は叶わなかったものの、若手が世界の大舞台でフォイリングレースを体験できたことは大きな収穫だったといえるのではないだろうか。

アメリカズカップ本戦は7勝1敗でチャレンジャーのエミレーツ・チームニュージーランドがディフェンダーのオラクル・チームUSAを下し、銀杯を奪取。次回、第36回大会は2021年、南半球の夏にニュージーランドで開催される予定となっている。(レポート／西朝子)

インビテーションナルカップ

# 日本からは〈サマーガール〉が出場



5回目を迎えたインビテーションナルカップ



〈サマーガール〉チーム

## スポーツマンシップにあふれたレース

米国ニューヨークヨットクラブ(NYYC)が主催するインビテーションナルカップは2009年から始まった隔年で行われる「コリンシアンセーラー」の世界一を決める格式のあるヨットレースで、2017年が第5回だ。

「コリンシアン」とは、単に「プロ」の対義語としての「アマチュア」という意味だけでなく、より高いレベルで競技に情熱を注ぐスポーツマンシップにあふれた人々を指すという。

レースはNYYCの制式艇であるClubSwanを採用し、世界中の錚々たる名門ヨットクラブが招待される。

17年のレースには日本から〈サマーガール〉チームがJSAF代表として参戦。同チームとしては2年ぶり2回目のチャレンジであり、今

回は完全なオリジナルクルーでの挑戦が実現した。

本レースは、大型艇のワンデザインレースであり、レーススタート前から激しい戦いが続く。風と潮の読みはもちろん、よいスタートとフレッシユア、ハードなハイクアウト、エッジまで行く気持ちの強さと根性、無駄に他艇と絡まないスマートな位置取り、確実なタッキングとジャイピングが求められる、簡単なようでも空回りすると順位は悲惨なことになる。

日本を代表して出場した〈サマーガール〉は、極めて激しい上位争いの中で中盤に揉まれてしまい、結果は7位となった。

馬場益弘チームキャプテンは、「レース結果に悔しさは残るし満足はしていないが、いつものチームでこの地で2回もヨットレースをすることができて本当に幸せ。次につなげていきたい。今回のチャレンジをフルサポートしてくださった植松眞 JSAF副会長に心より感謝します」と語った。(レポート／服部好彦、photo by Kazushige Nakajima)

セーリングの聖地、神奈川県葉山の森戸海岸にオープンした新感覚プロショップ！

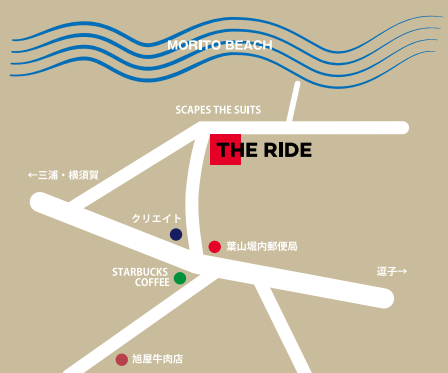
# THE RIDE

powered by **HARKEN**

www.theride-hayama.com



**HARKEN 製品国内最大の品揃え！  
国内外のトップセラーも多数来店！**



**THE RIDE** powered by **HARKEN**  
046-874-6546  
〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内 939-11

<http://harken.jp/>

2017年10月1日～4日 新居浜市新居浜マリーナ

## 第72回国民体育大会セーリング競技 愛顔つなぐ えひめ国体



微風の中、45レースを実施した

### 天皇杯、皇后杯とも 愛媛県が獲得

第72回国民体育大会「2017愛媛つなぐえひめ国体」セーリング競技は新居浜市の「新居浜マリーナ」で開催された。

男女総合優勝の天皇杯は地元愛媛県が獲得し、女子総合優勝の皇后杯も愛媛県が獲得する快挙を成し遂げた。

開催前から「風が吹かず、潮の流れが速い」と言われていたが、予想通り3～8ノットの微風で風向の変化も激しかった。

10月3日の午後から10～15ノットの風が吹き、日没が18時過ぎという中で成年男子レーザー級が17時6分にスタートし、レース終了が17時42分という神業のようなレースが行われた。17時過ぎのスタートはレース艇の安全対策から考えると不安だったが、問題が起きなかったことは救いだっただけだ。

ハーバーへ帰港する運営艇がライトを点灯させねばならなかったことは、ディングシーのレースとして、また国民体育大会としては反省すべき

点だった。国体は特に安全対策を優先する大会であることを肝に銘じ、今後の国体運営のあり方に注意を促したいと思っている。

成年女子ウインドサーフィン級が3レースしか実施できなかったが、残る9種目は各種目とも4レース以上が成立し、悪い得点をカットすることができた。予定レース数は4日間で60レースだったが、おおむね2日半で45レースが実施できた。レース委員会の海上役員のみなさまに心から感謝をしたい。

### ネットを有効に活用

レース委員会が監督に対して毎朝のブリーフィングを行ったことは、今までにない試みであり、今後の国体でも対応したいと考えている。

また今大会は、インターネットを使った多くの取り組みが行なわれた。

大会のホームページやフェイスブックを開設し、公式掲示と成績表をリアルタイムにアップしたことにより、スマホやタブレットからのアクセス数は2万2千を超えた。

公式通告、出艇申告状況、信号旗

掲揚時刻、各マークの座標、回航順位、フィニッシュ順位などの情報をLINEで運営役員が共有し、無線機での発信が少なかった。

これにより競技役員構成を簡素化できることとなった。今後、国体を開催するセーリング連盟は検討していただきたいと感じた。

「見える国体」という観点からいくなつかの新しい試みを行うなか、「海と日本プロジェクト」による補助事業で観覧艇2艇が運行され、千人以上がレースを観戦した。陸上ではトラッキングシステムと陸上・海上カメラ、ドローンによる映像などを駆使し、レース解説も含め大型モニターで多くの観客が楽しんでいた。

市民の参加が目立ったえひめ国体だったが、その中でも新居浜市国体応援大使として5人の少女が舞台の上で踊り、市民を大いに楽しませていた。

今大会は全体的にコンパクトにまとめられ、「おもてなし」や大会を楽しむ気配りがいくつも配慮され、国体のあるべき姿が表現された素晴らしい大会であり、また「東日本大

震災復興の架け橋」として盛り上がった。

大会開催にあたり海上自衛隊、漁業協同組合、新居浜マリーナおよび地元ボランティア団体など多くの関係者のご支援により大会が成功裡に終わりました。また、長年にわたり、ご尽力いただいた新居浜市実行委員会、愛媛県セーリング連盟のみならず、まに深くお礼を申し上げます。（レポートと写真/JSAF国体委員会 副委員長・森信和）



5人の少女が新居浜市国体応援大使として大活躍。彼女たちのダンスが市民を大いに楽しませていた

## セーリングの普及に効果

2017年9月5日、「夢・未来プロジェクト」(主催:東京都教育委員会)が東十条小学校(東京都北区)で実施され、児童たちがセーリングを体験した。

このプロジェクトは幼児・児童・生徒がオリンピックやパラリンピア等と直接交流することによりスポーツへの関心を高め、夢に向かって努力し、困難を克服する意欲を培い、平和な社会や共生社会に進んで貢献できるようにするという目的で実施されている。今回は北京五輪470級7位入賞の松永鉄也さんが講師を務め、JSAFがその実施に協力した。

当日、全校児童392人を対象に講演が行われた後、3艇のOPを使って、小学校のプールで実技指導が行われた。



東十条小学校の児童と一緒に記念撮影する松永さん



プールの中で児童を指導する松永さん

児童たちが2人一組でOPに乗りこみ、松永選手がプールに入って船の間近で指導を行った。1組あたり2〜3分という短い時間だったが、初めてヨットに乗った児童たちは「楽しい、もっと乗りたい」と歓声を上げていた。休憩時間には校長先生も乗艇し、「貴重な体験ができてよかった」とニコニコ。

JSAFのスタッフとして「夢・未来プロジェクト」にかかわってみて、セーリングの普及に効果があると感じた。今後もマリンスポーツ競技を知りたいと希望する学校があれば、積極的に協力したい。同時に、より多くの地域で開催できる環境を整え、全国各地で同じようなイベントを行い、将来のセーラーを少しでも増やせるように、その裏方として地道な活動を行う必要があると感じた。(レポート/西宮敬宏・JSAF事務局、写真/濱谷幸江)

## 「夢・未来プロジェクト」にJSAFが協力 松永鉄也さんが講師に



流木ゴジラ (山口県光市)

## 「海と日本プロジェクト2017」 全国12カ所で開催



体験乗船 (千葉県千葉市)



国体観覧船 (愛媛県新居浜市)

## セーリングを始める人を 増やしたい

2017年、JSAFは日本財団の「海と日本プロジェクト」(略称:海プロ)事業の助成を受け、全国12カ所で「海の日」を記念するイベントを開催し、約8千人の参加を得た。「海プロ」は、30〜40代への調査で「海に親しみを感じる」と回答した人が著しく減少していることを踏まえ、その子どもたちの世代の親水の意識を変えたいと実施するもの。

17年度の「海プロ」では、各地でさまざまな成果があった。26日間のロングランで体験乗船を行った小樽市では皆勤賞の子どもから「セーリングができるようになった」とのうれしい感想が届いた。光市ではマリンスポーツ体験に加えて水鉄砲ゲームや流木アート、ボルダリング体験、ドローン撮影映像公開

などを行いマスコミから大きな反響を得た。行政との協業でビーチクレーンから体験乗船、カッター漕艇、絵日記コンテストを行った千葉市ではハーバーに親近感を持つ市民と出合い、大阪市の体験乗船ではジュニアスクールの参加希望者を獲得。境港市では水難救助の実演デモで家族みんなで安全の意識を確認し合い、和歌山インターハイやえひめ国体の観戦を通してはセーリングファンを増やすことができた。

18年度は単にイベントで楽しむにとどまらず、これをきっかけにセーリングを始める人を増やしたいと思っている。18年3月にはボートショー(パシフィコ横浜)でも活動し、そこから「海プロ」でのセーリング体験までをつなげ、さらにはJSAF会員の獲得を目指したいと考えている。(JSAF「海と日本プロジェクト」担当・川北達也)



QUANTUMSAILS™



### 2017年 主なレース結果

- Maxi72 世界選手権 - 1
- TP52 世界選手権 - 1,2
- RC44 世界選手権 - 1
- Farr 40 OD 世界選手権 - 1,3
- Melges32 世界選手権 - 1 3年連続優勝
- Melges24 世界選手権 - 1,5
- Melges20 世界選手権 - 2

他多数

クァンタムは挑戦を続ける、  
ワンデザインクラスでの勝率の高さ、  
TP52シリーズに代表される開発力、  
その評価はアメリカスカップへと繋がる。

クァンタム・ジャパン  
www.wattsmarine.jp  
冬期キャンペーン実施中!!  
2018年3月末まで

新規セイル、セイル修理、ロープ&艀装品、  
マストを含むリグメンテナンス等。  
お気軽にご相談下さい。

(株) セイルズ・パイ・ワッツ・ジャパン  
本社ロフト  
〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町8-40  
電話：046-882-5451 Fax：046-882-4319  
関西営業所  
〒662-0933 兵庫県西宮市西波止町1-2  
マリンスクエア M-1  
電話 & Fax：0798-23-6410



2017年、各地を巡ったフラッグには寄せ書きが増えていった



\*東京 2020 参画プログラムとは、イベントや事業を通して東京 2020大会に向けたオリンピック・パラリンピックの機運を醸成し、その先のレガシーを創出しようとするもの。本フラッグリレーもそのひとつとして公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に認定されている。

レースだけでは  
ありません。  
JSAFのさまざまな  
活動を紹介します。

JSAF はレースの実施・運営以外にも  
様々な活動を行っています。  
メンバーのさらなる協力をお願いいたします。

### TOKYO 2020 参画プログラム

日本一周フラッグリレーは、2020年東京五輪とそのセーリング競技を盛り上げ、成功させるために、「2020年東京オリンピックを成功させよう」、「海をきれいに」の2つのフラッグをヨットに掲げ、日本一周するというJSAFが行うプログラムです。これは\*東京2020参画プログラムとして認定を受けています。

スタートは「小笠原ヨットレース」(小笠原諸島返還50周年記念事業)のスタート地点、小笠原諸島の父島でした。(本誌5ページ参照)。

小笠原ヨットレースの前夜祭には

## 「日本一周 フラッグリレー」 東京五輪と セーリング競技を 盛り上げよう

森下一男小笠原村長や参加艇から寄せ書きをいただき、(1122トレットキー)(新田肇艇長)に2枚のフラッグを託し、5月2日にスタートしてフィニッシュの神奈川県小網代まで運びました。

5月7日の小笠原レース表彰式では、吉田英男三浦市長、河野博文JSAF会長、植松真同副会長から寄せ書きをいただき、フラッグは大洗の(弥勒)(伊藤猛艇長)へと引き継がれました。

そして、(弥勒)により三浦市から大洗へ、さらにいわき市へと運ばれ、6月4日のいわき市での引き継ぎ式では、清水敏男いわき市長をはじめご来賓の方々から挨拶・寄せ書きをいただき、いわきの(飛輪)(村田俊夫艇長)へ引き継がれました。

後日、内堀雅雄福島県知事にもメッセージをいただいています。

小笠原から室蘭へ。  
そしてさらに……

その後、フラッグは宮城県七ヶ浜の宮城外洋帆走協会の赤石隆理理事長に手渡され、青函カップレースに参加する(ムーンライト)エクスプレスの(鈴木明朗艇長)が津軽海峡を渡り、函館市へと運びました。函館での引き継ぎは7月14日の第30回青函カップヨットレースの選手会で行われ、函館市生涯学習部・町谷仁志課長と函館の北海道外洋帆走協会の理事長に引き継がれ、15日に函館をスタートし、(ギャロップ)(石川彰艇長)がその他のレース参加艇とともに青森へ運びました。表彰式では小野寺晃彦青森市長と青森セーリングクラブの若井敬一(名誉会長)へフラッグが引き継がれました。そしてフラッグは8月に函館(室蘭)エンルムマリーナ杯で室蘭までたどり着いています。

2018年には北海道を経由して日本海を下り、九州、四国、沖縄、東海レース、パールレースのレース艇に託されます。なお、日本海ルートなどは県連や海の駅などの協力を得て推進したいと考えています。

日本各地のセーラーがオリンピックに寄せる思いやメダルへの期待をフラッグに託し、2020年の東京オリンピック・セーリング会場の江の島に到着する予定です。(レポート/JSAF理事・菊池邦仁)



福井プレ国体のチャイルドルーム (photo by Kuniko Yamada)

# チャイルドルームが活用されています

— 東京2020での設置を目指して



えひめ国体のチャイルドルーム (photo by Miwako Tomita)

## 延べ167人の利用者

チャイルドルーム設置の目的は、大会期間中に乳幼児を帯同して参加する選手や役員・大会関係者や観覧者のために、環境を整え便宜を図ることである。

保護者が用意した乳幼児の食事および授乳やおむつ替え、休憩や仮眠などのために、保育士とレディース委員が常駐し、委員会として保険にも加入している。

これまでは国体・プレ国体・全日本470級選手権大会等、年で十数日間の開設であった。だが2017年度は五輪での設置を視野に入れ6大会で合計36日実施し、延べ167人の利用者があった。選手や大会関係者には、安心して乳幼児を連れて参加できたと喜んでいただけた。

## さまざまな大会でチャイルドルームの可能性

17年度はまず全日本470級選手権大会と470級ジュニア世界選手権大会の2大会で、ほぼ連続して15日間、設置した。毎日最低3人の保育士免許を持つスタッフを確保するために、藤沢市の保育ボランティア団体にお願した。

セーリング関係以外の団体に依頼するのは初の試みだったが、五輪に向けてこれから開催される江の島会場での人材確保の手立てとしては、有効であると感じた。

国体では、保育士免許を持つスタッフの手配や備品の準備・場所の確保を国体の実行委員会をお願いしている。17年度の福井プレ国体では、福井県連や高浜町実行委員会に、え

ひめ国体では愛媛県連や新居浜市実行委員会にご尽力いただいた。特に新居浜では利用者が多く、週末は満員の状態であった。

日本で初めて開催されたセーリングワールドカップ愛知・蒲郡大会でも、実行委員会の支援をいただき設置することができた。江の島オリンピックウィークでは実行委員会が主催し、レディース委員会が協力する形で実現した。この方法をとれば他のさまざまな大会でも、チャイルドルームの実施が望めるかもしれない。

## 女性が活躍すればセーリング界はもっと元気になる！

17年度にチャイルドルームをもっとも利用していただいたのは470級の吉田愛選手だった。その吉田選手がワールドカップ愛知・蒲郡大会、オリンピックウィークと2大会続けて表彰台に上がったことは、大変にうれしいことだった。

レディース委員会の目標は、女性が生涯スポーツとしてセーリングを続けていく環境を、ほんの少しでも整えていくことである。選手としてだけでなく、運営や指導者としても女性が活躍してほしい。女性が活躍することで、セーリング界は絶対にもっと元気になる！そう信じて活動している。(レポート/レディース委員会委員長・富田三和子)



# うねりを、チャンスに。

*From Uncertainty, Opportunity.*

環境変化が激しさを増すなか、

私たちはいま先の見えない不確実性の時代を生きています。

しかし、このうねりは私たちを未来へと突き動かすエネルギーであり、あらゆる場所に創造の機会があふれています。

130年にわたって積み重ねてきた信頼のネットワークと世界で鍛えた海技力。

そして、次世代の切り札となる「環境」と「ICT」への挑戦。

商船三井は、持てる力をひとつにして新たな可能性を切り拓き、世界の発展に貢献できる強くしなやかな存在をめざします。



**MOL** 商船三井

<http://www.mol.co.jp/>



## その先の感動へ。

モータースポーツ、ヨットレース。ヤマハ発動機は国内外の様々なレースに挑戦し、その歴史に名を刻んできました。その根底にあるのはチャレンジスピリット。Revs Your Heart— 心躍る瞬間、そして最高の体験を、YAMAHA と出会う人々に届けます。

**ヤマハ発動機株式会社**

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 <https://www.yamaha-motor.co.jp>



2017 障がい者セーリングチャレンジ東京での模擬レースの様子と参加者の方々



## JSAF 障がい者セーリング推進委員会の活動について

平成28年9月に設置

JSAF 障がい者セーリング推進委員会は、ワールドセーリングからの要請を受け平成28年9月に委員会として設置されました。

当委員会は、日本の障がい者セーリングに関する窓口として、主な障がい者セーリング団体と協議を重ねて設立されたものです。国内・国外における障がい者セーリングに関する情報・問い合わせ等について、ワールドセーリングおよびその他の海外組織、国内関係団体、実施団体、JSAF 関係委員会と連携をはかり、情報提供・連絡・調整を行うことをそのミッションとしています。

平成29年度の活動は、パラワールドチャンピオンシップへ選手を派遣するための寄付活動から始まり、2・4mRの1人乗りキールボートに丹羽巧選手を派遣することができました。

また、障がい者セーリングを普及・強化推進するための候補地の募集、委員会として第13回全日本プラインドセーリング選手権大会の協力、視覚障がい者も参加した2017障がい者セーリングチャレンジ東京の共同主催等を行いました。

平成30年度はワールドセーリングのパラリンピック・デベロッパメントプログラムの広島開催、2018ハンザクラスワールド広島大会の共同主催、セーリングワールドカップ江の島大会での障がい者競技の対応、JSAF 障がい者セーリング普及・強化推進拠点の選定、2020パラワールド日本開催のための活動を行います。(レポート/障がい者セーリング推進委員会 副委員長・事務局長 高間信行)

### 「寄付金募集」に関するお知らせ



ここをクリック!

JSAFの事業は寄付などの支援によって成り立っています

JSAFホームページのメニューバーに「寄付金募集」のタブが設けられました。

JSAF会員だけではなく、広く一般の方にも寄付金制度とその活用方法を知っていただける内容になっています。

個人による寄付金に関しては、確定申告を通じて、所得控除の対象にもなりますので、ぜひ一度、ご覧になってください。

JSAFが募集する寄付金には大きく分けて3種類あります。

まず、セーリングスポーツの普及活動全般を目的とした「一般寄付」。次に、募集目録見書により募集目的を特定する「特定寄付」(例・東京2020に向けた選手強化事業、障がい者セーリング普及事業、宮城県名取市関上ヨットハーバー再建事業等)。

最後に、その他の特定事業への充当を目的とした「特別寄付」(例・特定選手の応援・強化や特定公益事業の支援を目的とした寄付等)。

右記のいずれから選ぶことができます。

JSAFの事業の多くは皆さまからの寄付などのご支援によって成り立っています。ぜひともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

詳しくは、JSAFホームページ(URLは下記参照)をご覧ください。(レポート/JSAF 財政委員会)

# 夢にむかって・・・ セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します!

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、  
障害者スポーツの海外派遣、  
フランスへの個人語学留学の手配、  
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。

株式会社 **グロリア ツアーズ** TEL:03-6826-3434 (代表) <http://www.gloria-tours.jp>

**病院**  
北柏リハビリ総合病院(247床)

**クリニック**  
西浦眼科  
まちや外科内科  
梅郷整形外科クリニック(13床)  
天宣会循環器・睡眠呼吸クリニック

**介護老人保健施設**  
梅郷ナーシングセンター(124床)  
北柏ナーシングケアセンター(120床)

**訪問看護**  
北柏訪問看護ステーション

**健診センター**  
柏健診クリニック  
汐留健診クリニック

**居宅介護支援**  
梅郷ナーシング居宅介護支援事業所  
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所  
居宅介護支援センターみゆき  
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館  
居宅介護支援事業所 かしわ安心館

**介護老人福祉施設**  
みゆきの郷(120床)  
流山こまぎ安心館(110床)  
かしわ安心館(110床)

**在宅介護・福祉用具**  
エンゼル・サービス柏  
(訪問介護・在宅介護支援  
・介護支援ショップぬくぬく)

**研究**  
日本成人保健医療問題研究所

**柏エンゼルクロス**  
女子バレーボールチーム(Vリーグ所属)

「感謝な心」で  
信頼の医療サービスを  
ご提供いたします

**天宣会グループ** 〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1  
TEL.04-7167-6667 (代表)

医療法人社団 天宣会

社会福祉法人 天宣会

株式会社 日本エフピー総合企画

JVA2017-12-006



池江璃花子(ルネサンス亀戸)



全日本女子バレーボールチーム

SAJ30承認第00346号



葛西紀明(土屋ホーム)

# POWER TO PERFORM



本田圭佑



平野美宇(大原学園高等学校)

限界へ挑戦する「原動力」が  
観るものを魅了し、  
心をひとつにする。  
スポーツが生み出すチカラを  
私たちは信じる。



井上尚弥(大橋ボクシングジム)



飯塚翔太(ミス)



奥原希望(日本ユニシス)

<選手所属は2017年12月現在>



#powertoperform  
#原動力

# ライフジャケット (桜マーク付)の 着用義務化と 大会等での例外について

国土交通省令の改正があり、平成30年2月1日から小型船舶の甲板では、原則、すべての乗船者が認証（桜マーク付）ライフジャケットを着用することが義務化されました。

これにより、ヨット界で広く利用されている世界標準のISO認証のライフジャケット等であっても桜マークの付いていないものの着用では、法令違反となります。

なお、関係省庁と折衝の結果、下表のようにJSAFおよびその加盟する団体の主催する大会およびそれに準じた練習中については、ヨット界での基準での安全対策を行っていることを前提に、小型船舶対象のヨット、レース運営艇・審判艇、レースおよびレース練習のためのレスキューボート、コーチボート等について、ヨット界の基準での個人用浮揚用具（ライフジャケット）でよい、という特例が認められました。

小型船舶対象の機関付き大型艇ヨット

## JSAF 個人用浮揚用具(ライフジャケット)に関する基準 (小型艇/機関無し)

平成29年12月2日 理事会承認

- ① 個人用浮揚用具についてクラス規則、大会での基準がある場合はそれに従うこととする。
- ② クラス規則、大会での基準がない場合の個人用浮揚用具は、ISO12402-5、レベル50または同等の基準に従うこととする。  
なお、未成年や身体が軽いセーラーの場合は、自分の体重を支えるのに十分な浮力があり、ISO等による浮力表示がされているものとする。

なお、大会中または練習中に動力を有する小型船舶（運営艇・審判艇・救助艇・コーチボート等）に乗船する場合には、必ず上記基準または認証された個人用浮揚用具(ライフジャケット)を着用することとする。

の場合、JSAF外洋特別規定に基づくこととなります。

小型船舶の対象外の機関のない小型ヨットの場合、艇そのものはライフジャケット義務化の対象外ですが、関係する運営艇・コーチボート等もヨットの基準に準じます。小型ヨットの場合、クラス規則、それぞれの大会で基準を設けている場合もありますが、すべての大会・練習中を包括してのJSAFとしての基準はなかったため、この度、右記の「個人用浮揚用具（ライフジャケット）」に関する基準（小型艇（機関無し）」を定めました。

なお、同じヨット、運営艇・コーチボート等でも、レースおよびそれに準じたレース練習以外の場合には特例の対象とならず、義務化本則の適用となりますのでご注意ください。たとえば、ヨット体験乗船やレースのための回航などの場合、特例は認められず、桜マーク付ライフジャケット着用義務となります。

## JSAF ライフジャケット（認証・桜マーク付）着用義務化の対象外について（大型艇関係）

	大型ヨット（機関付き）	大型ヨットのためのレース運営艇・救助艇（コーチボート等含む）
対象艇	● JSAF 登録艇または JSAF 加盟のクラス協会登録艇である小型船舶の対象となる機関付きのヨット	● 左記大型ヨットのレースを運営するレース運営関係のボート ● 左記大型ヨットのレース、レース練習のための救助艇(コーチボート等含む)
対象行為	● 次の要件をすべて満たすレース ① 国際セーリング連盟の定めるセーリング競技規則に基づくレース ② 主催は JSAF または加盟団体・特別加盟団体 ③ 外洋特別規定または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全対策（以下「外洋特別規定等」という）を適用している ● 上記レースのための練習で、外洋特別規程等を遵守する安全対策を取っている場合	● 左記要件に従ったレース  ● 上記レースのための練習で、外洋特別規程等を遵守する安全対策を取っている場合  ● 上記レース・レース練習に参加するための当該海面とヨットハーバー・マリーナ等の泊地との往復を含む
内容		● 個人用浮揚用具は、外洋特別規程等で規定されている規格のものでよい
対象の確認	● 小型船舶の対象となる機関付きのヨットのセールに JSAF 登録番号または JSAF 加盟クラス協会の登録番号が表示されている	● ヨットのセールに JSAF 登録番号または JSAF 加盟クラス協会の登録番号が表示されているヨットに関するレース運営、救助、コーチング等で活動している機関付きボート

## JSAF ライフジャケット（認証・桜マーク付）着用義務化の対象外について（小型艇関係）

JSAF 加盟団体、特別加盟団体が主催するディンギーレースおよびそのための練習においても、レース運営関係艇および救助艇（コーチボート等含む）については、大型艇同様対象外となり、着用する個人用浮揚用具は、JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準に適合するものでよい。ただし、対象となるレースは国際セーリング連盟の定めるセーリング競技規則に基づいたレースであり、JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準を満たしていなければならない。

	小型ヨット（機関無し）	小型ヨットのためのレース運営艇・救助艇（コーチボート等含む）
対象艇	● JSAF 登録艇または JSAF 加盟のクラス協会登録艇である小型ヨット ⇒ただし小型ヨットは小型船舶でないため、今回の義務化の対象外	● 左記小型ヨットのレースを運営するレース運営関係のボート
対象行為	● 次の要件をすべて満たすレース ① 国際セーリング連盟の定めるセーリング競技規則に基づくレース ② 主催は JSAF または加盟団体・特別加盟団体	● 左記小型ヨットのレース、レース練習のための救助艇(コーチボート等含む) ● 左記要件に従ったレースで、JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準を遵守する安全対策を取っている場合 ● 上記レースのための練習で、JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準を遵守する安全対策を取っている場合 ● 上記レース・レース練習に参加するための当該海面とヨットハーバー・マリーナ等の泊地との往復を含む
内容		● JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準に基づく安全対策をとっていること ● 個人用浮揚用具は、JSAF または JSAF 加盟クラス協会が規定された安全基準に適合するものを着用していること
対象の確認		● ヨットのセールに JSAF 登録番号または JSAF 加盟クラス協会の登録番号が表示されているヨットに関するレース運営、救助、コーチング等で活動している機関付きボート



毎月  
5日  
発売

日本と世界の海の最新情報

ヨット・モーターボートの雑誌

# Kazi

●A4判 / 208~224ページ ●定価: 本体1,048円+税

<http://www.kazi.co.jp/>

<https://www.facebook.com/kazi1932>

お問い合わせ: 舵社 販売部

〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-17 ストックベル浜松町3F

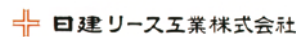
**TEL 03-3434-4531**

●全国書店でお買い求めいただくか、弊社販売部まで、ご注文ください。

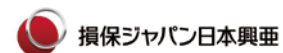
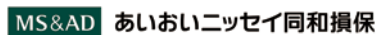


環境キャンペーン協賛社

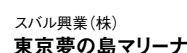
平成29年度賛助会員



外洋キャンペーン協賛社



J-SAILING No.113  
 平成30年3月7日発行 通巻467号  
 発行/公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会  
 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1  
 電話 03-3481-2357 ファクス 03-3481-0414  
 E-MAIL head@jsaf.or.jp  
 発行人/河野博文 編集人/柳澤康信  
 エディター/豊崎謙 デザイナー/松岡雅子  
 定価/300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)  
 www.jsaf.or.jp/hp



地球が鍛えたスペック。



人類の、すべての挑戦とともにあり続ける。それがPROSPEXの使命。  
誕生から半世紀の時を越えてなお、数々の伝説を作り続けている。  
南極大陸、極寒のエベレストから、水深1000mの深海まで。  
大自然の力に磨かれながら、この時計は地球上のいかなる環境をも制覇する。



PROSPEX

SEIKO



# はじめての サクツ。



この香ばしさ。

## Levain PRIME

SNACK | ルヴァン プライム スナック

新発売



サクッと広がる  
香ばしさ

25枚×3パック

ヤマザキビスケット株式会社

平成30年3月7日発行 通巻467号

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

定価300円

NO.113